

顔に基づく社会的認知のステレオタイプ

早稲田大学理工学術院 渡邊克巳研究室

年齢別感情経験信念と表情帰属の関連

◎河原美彩子・鈴木敦命

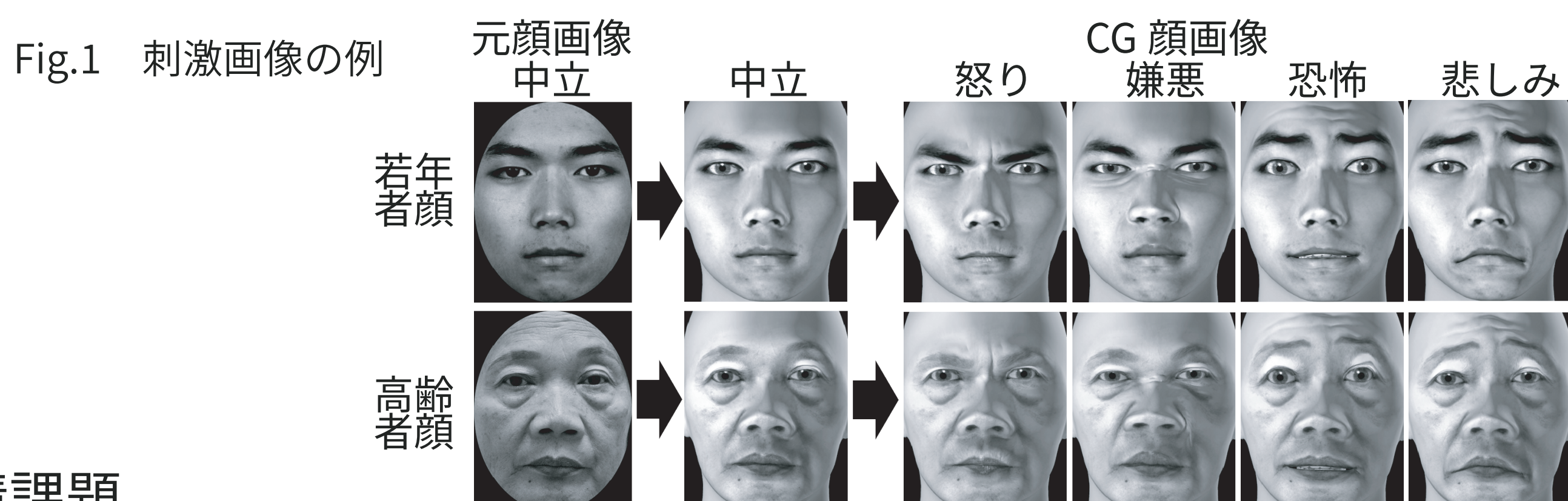
問い

- 感情経験の年齢ステレオタイプ：一般に若年者は怒りを、高齢者は喜びや悲しみの感情経験頻度が高いという信念が存在する^[1]
- 表情認知精度は顔年齢や感情カテゴリによって異なる：悲しみの表情は高齢者の顔でより正確に判断される^[2]
- 年齢に関連したステレオタイプと表情認知バイアスの関連は指摘されているものの、それを直接的に検証した知見は少ない

⇒「『高齢者は悲しみを体験しやすい』との信念に沿って、高齢者表情が悲しみと分類されやすい」といった関連が見られるか検証

方法

- Taiwanese Facial Expression Image Database^[3] から台湾人男性の若年者と男性者（各10名）の中立顔画像を選定し、表情筋動作を統制したCG表情画像を刺激として作成



表情課題

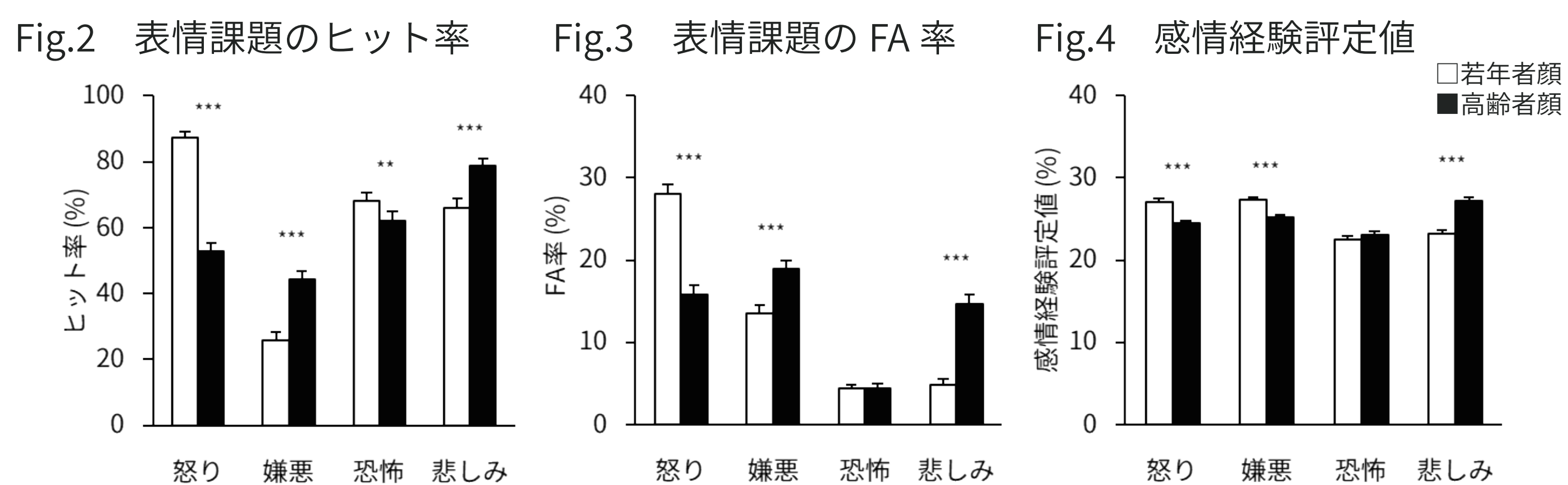
- 作成したCG表情画像（4感情×モデル10名×2年齢）を1枚ずつ呈示し、顔が示す感情を怒り・嫌悪・恐怖・悲しみから回答

経験課題

- 作成したCG中立顔画像（表情課題の刺激と同一モデル）を1枚ずつ呈示し、その人物が日常生活で4つの各感情をどの程度経験しているか7段階で評定（計20試行）

結果と考察

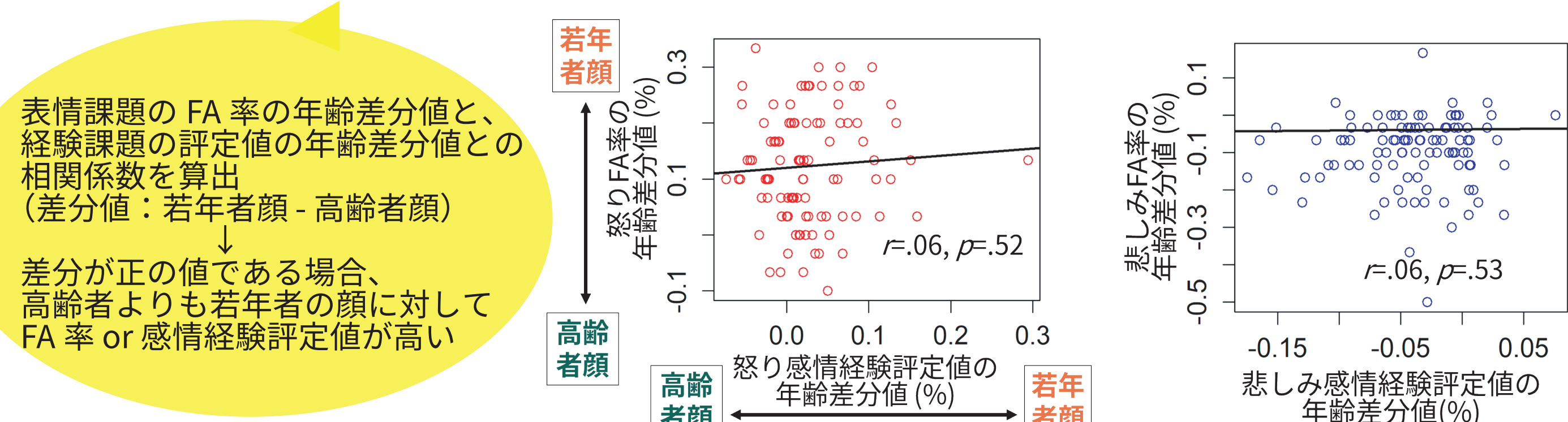
- 表情認知ヒット率 (Fig. 2) / 誤警報 (false-alarm: FA) 率 (Fig. 3)、感情経験評定値 (Fig. 4) を算出し、分析



- 【Fig. 3】怒りは若年者顔、嫌悪と悲しみは高齢者顔への帰属が多い ⇒ 表情筋動作が同一でも顔年齢は表情認知に偏りを生じさせる
- 【Fig. 4】怒りと嫌悪は若年者、悲しみは高齢者で高い頻度で経験していると評価された

- 感情経験の年齢ステレオタイプと表情誤帰属は関連？

Fig.5 FA率(表情課題)と感情経験評定値(経験課題)の相関(左:怒り, 右:悲しみ)



- 【Fig. 5】表情の誤帰属は、感情経験の年齢ステレオタイプによって直接的に説明されなかった
- 【解釈1】感情経験に関する年齢ステレオタイプが表情の帰属に直接的には影響しない可能性
- 【解釈2】課題間の回答形式の不一致（強制選択 vs 評定）が結果に影響した可能性
⇒ 回答形式を統一し、測定構造の一致性 (structural fit) を高めた場合にも今回の結果が再現されるか今後要検討

References [1] Montepare et al. (2014). DOI: 10.1093/geronb/gbt073 [2] Hühnel et al. (2014). DOI: 10.1016/j.jesp.2013.09.011 [3] Tu et al. (2018). DOI: 10.3389/fpsyg.2018.02358

頭の中で思い描く政治家はどんな顔？

◎杉本海里・中村航洋・尾野嘉邦・浅野正彦・渡邊克巳

問い

- 選挙投票などの政治的判断には、外見などの非政治的要因が関与。平和と戦争などの文脈によって、求められる政治家の資質が違う。(e.g., Todorov et al., 2005) (Ferguson et al., 2019)
- 日本人の潜在的ステレオタイプを反映した政治家顔はどんな顔か。役職によって特徴は異なるか。(内閣総理大臣 VS 防衛大臣)
- 画像分類逆相関法によって、政治家にふさわしい顔とふさわしくない顔を生成。(中村ら, 2021)
- 問①: この顔はどのような印象か。役職間の違いはあるか。
問②: この顔ステレオタイプは、選挙状況での評価に影響するか。
問③: どんな人が顔ステレオタイプの影響を受けやすいか。



方法

- 20~80歳の52名がYahoo!クラウドソーシング上で参加。(M=51.1歳, SD=14.7歳) (男性34名, 女性16名, 無回答2名)
- 顔性別ごとに4枚セットで呈示される顔画像を、以下の5つの評価観点に基づいて、1位~4位に順位付け。
 - 【顔印象の指標】親しみやすいと感じる順番/若々しく魅力的と感じる順番/支配的と感じる順番 (Sutherland et al., 2013)
 - 【選挙関連の指標】選挙に当選しそうだと思う順番/選挙においてあなたが投票したいと思う順番
- 個人特性: 「政治関心の高さ」と「人相学的信念の強さ」を測定。(田口, 2017) (Suzuki et al., 2017)

結果

- 政治家にふさわしいとされた顔は、親しみやすい・若々しく魅力的・支配的。防衛大臣顔は総理大臣顔より支配的。
※整列ランク変換を行った上で「ふさわしさ」と「役職」を要因とする参加者内2要因分散分析を実施。
※対応のあるBrunner-Munzel検定を、単純主効果検定として実施。
- 政治家にふさわしいとされた顔の人物は、選挙状況で高評価。
※役職や顔性別によらず一貫した結果。
- 政治への関心が低い人ほど、顔ステレオタイプを選挙評価に反映する傾向。
※年齢と性別を共変量としても、一貫性あり。
※人相学的信念の強さの有意性は確認されず。

目的変数	モデル	説明変数	Estimate	p
選挙に当選しそうだと思う順番の差	a	政治関心	-0.81	.040*
	b	政治関心	-1.17	.011*
		年齢	-0.04	.044*
選挙においてあなたが投票したいと思う順番の差	c	人相学的信念	-0.93	.101
	d	政治関心	-0.72	.029*
	e	政治関心	-0.68	.042*
		年齢	0.03	.093
		性別 (男性)	-0.25	.652
	f	人相学的信念	-0.81	.081

※数値が高いほど、ステレオタイプに基づいた投票の判断を意味する。ふさわしくない顔の平均順位からふさわしい顔の平均順位を減算して、「政治家顔ステレオタイプに基づく意思決定傾向の度合い」を算出。
※累積補対数対数モデルによる順序回帰分析。

